

2017年6月17日

日本生命財団学際的総合研究助成
都市環境イノベーション研究会(第7回)

報告2: 各都市モデルにおける社会イノベーション「飯田モデルにおける社会イノベーション」
(産業社会)

早稲田大学理工学術院 (NTT データ経営研究所) 渡邊 敏康

①飯田モデル(産業社会)における社会イノベーションの定義

- 前提:(産業社会の観点での)市場的受容性、並びに社会的受容性が充足されている
 - 飯田では、「環境配慮型製品(市場)」「気候変動への取り組み(社会)」
- 産業社会における組織・企業間で、市場的受容性の充足を目指して、行政や市民とも協働の場を形成しながら、地域内で新たな技術開発(製品、仕組み)が形成・継続している状態を、社会イノベーションと定義できるのではないか
 - 協働の場を継続させている仕組みとしての制度的受容性(=地域版環境マネジメントシステム)が担保されている
 - 地域の産業社会においても、市場的受容性が享受されている(「南信州いいむす21」を取得する意義を有している)

②社会イノベーションに至る社会的受容性と協働ガバナンスがどうであったのか(社会的受容性と協働ガバナンスがどう作用したのか)

※次頁図ご参照

③次のステップ(手がかり)は何か

- 産業社会において、協働の場がお互いに連携していく必然性がどのように確保できるのか
 - 「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」と「飯田航空宇宙プロジェクト」の関係性(関係しあう必然性)
- 行政で実行してきた低炭素型社会に加えて、循環型及び自然共生型社会のモデル推進とその融合に向けた場をどのように形成していくか
 - 「エコタウン事業」「まほろば事業」を始めとする事業
- 技術イノベーションは、現状では私企業の中に閉じている。これを地域における技術イノベーションに向けてどのように取り組んでいくか
 - 電気自動車、新エネルギー、等

